

◎海外医療協力団体◎

ペシャワール会

PESHAWAR-KAI

我々の鉄則とするのは

地元即した

地元の人々による医療活動である

アジアの同胞としての

同じ目の高さをもって

「国際貢献」「国際化」の何たるかを

静かに問い続けるものでありたい

中村哲

ペシャワール会事務局 本部:福岡

〒810-0041 福岡市中央区大名1-10-25 上村第2ビル307号

電話 092-731-2372 FAX 092-731-2373

(会長) 高松勇雄 (事務局長) 村上優 (現地代表) 中村哲

郵便払込口座 01790-7-6559 加入者名 ペシャワール会

ホームページ <http://www1m.mesh.ne.jp/~peshawar/>

eメール peshawar@mx.mesh.ne.jp

郵便物送付先 福岡市中央区天神1-10-24 福岡YMCA気付

ペシャワール会の活動は、1983年9月、中村医師のパキスタンでの医療活動を支援する目的で結成されました。彼の活動を支援するとともに、アジアの人々についての理解を深めていきたいと願っています

●中村哲医師の本●

郵便口座 01710-6-87114 加入者名 ペシャワール会書籍口座

*送料:1~4冊350円、5~9冊500円、10冊以上1000円です



←『医者 井戸を掘る アフガン早魃との闘い』

1890円(税込)(石風社 2001年刊)
アフガニスタンを襲った最悪の大干ばつに、1000の井戸をもって挑む中村医師とペシャワール会の苦闘と実践の記録



中村哲
ほんとうのアフガニスタン

18年間「闘う平和主義」をつらぬいてきた医師の現場報告

『ほんとうのアフガニスタン』→

1260円(税込)(光文社 2002年刊)
講演・対談を中心に収録した最新刊



『ペシャワールにて』
1890円(税込)

(石風社 89年刊)



『ダラエヌールへの道』
2100円(税込)

(石風社 92年刊)



『医は国境を越えて』
2100円(税込)

(石風社 99年刊)



『アフガニスタンの診療所から』
1260円(税込)

*アジア太平洋賞特別賞(筑摩書房 93年刊)



←『アフガン 乾いた大地 戦火の中の民』

丸山直樹著
1470円(税込)
(NHK出版 01年刊)

『ドクター・サブ→ 中村哲の15年』

丸山直樹著
1575円(税込)
(石風社 00年刊)



心が動いたら会員に

ペシャワール会入会案内

現地事業はあなたの会費で運営されます

本会は、会員の会費・寄付金を中心とした寄金によって運営されるNGO(非政府組織)です。本会の活動をご理解いただければ、思想・宗教・国籍などいかなるものにも関係なく入会できます。

*会員の方には、現地の活動をお知らせする会報を年4回お送りしています。



会費(年会費)

学生会員	1000円
会員	3000円
維持会員	10000円
団体会員	30000円

(会計年度は4月1日~翌年3月31日)

*会費以外の寄付も随時受け付けております
*中村医師の著作も扱っています

会費・寄付などの納入方法

郵便口座 01790-7-6559

加入者名 ペシャワール会

お振込みの場合は、本会の払込用紙または郵便局備え付けの払込取扱票に上記の口座番号ほか、必要事項をご記入の上、郵便局へお出し下さい。

* * *

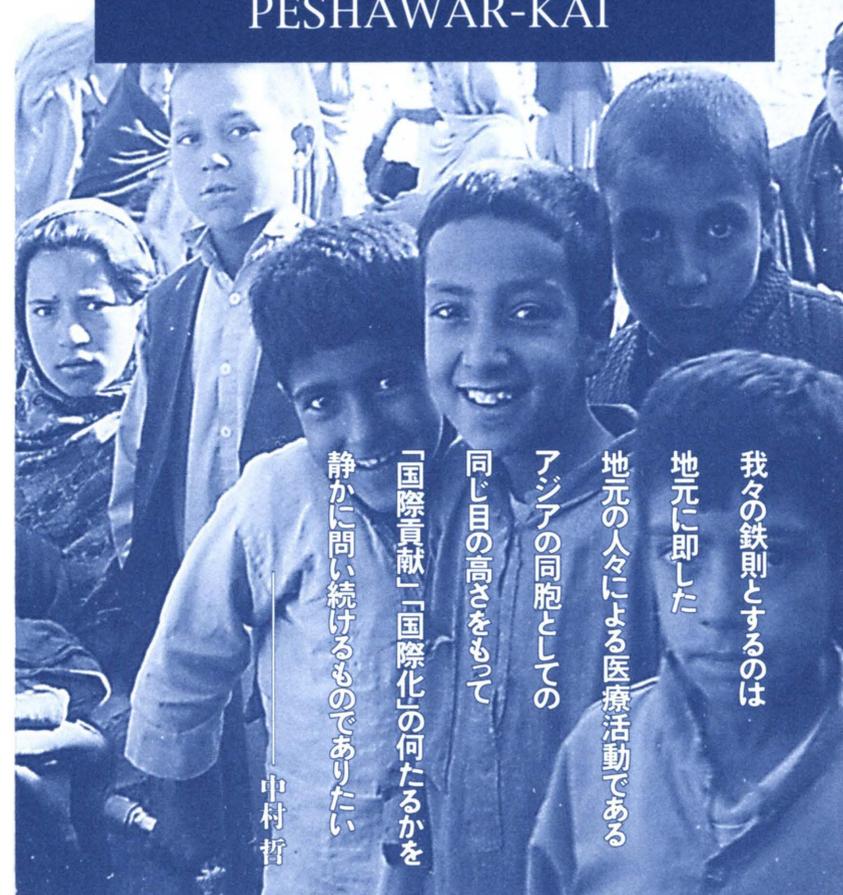
❗ 書籍のご注文の際は、
郵便口座 01710-6-87114 加入者名 ペシャワール会書籍口座
まで送金ください。

●会報の発送に年間百万円以上がかかっております。未使用の切手・書き損じのハガキ等お送りいただければ幸いです。(古切手は扱っておりません)

●海外医療協力団体●

ペシャワール会

PESHAWAR-KAI



我々の鉄則とするのは
地元即した
地元の人々による医療活動である
アジアの同胞としての
同じ目の高さをもって
「国際貢献」「国際化」の何たるかを
静かに問い続けるものでありたい
中村哲

ペシャワール会事務局 本部:福岡

〒810-0041 福岡市中央区大名1-10-25 上村第2ビル307号

電話 092-731-2372 FAX 092-731-2373

(会長)高松勇雄 (事務局長)村上優 (現地代表)中村哲

郵便払込口座 01790-7-6559 加入者名 ペシャワール会

ホームページ <http://www1m.mesh.ne.jp/~peshawar/>

eメール peshawar@mx.mesh.ne.jp

郵便物送付先 福岡市中央区天神1-10-24 福岡YMCA気付

ペシャワール会の活動は、1983年9月、中村医師のパキスタンでの医療活動を支援する目的で結成されました。彼の活動を支援するとともに、アジアの人々についての理解を深めていきたいと願っています

誰も行かない所にこそ、我々のニーズがある

パキスタン(北西部)、アフガニスタン(北東部)山岳無医村で医療活動

○ベシャワール会は中村哲医師のパキスタンでの医療活動を支援する目的で結成され、1984年より活動を開始しました。現在パキスタン北西辺境州、アフガニスタンに1病院と4診療所を運営し、診療にあたっています(2001年度の年間診療数29万人)。

○加えて2000年夏より、戦乱に加えて百年に一度といわれる大干ばつに襲われたアフガニスタンの村々で水源(井戸・カレーズ)確保作業を継続しています。

○2001年10月以来のアフガニスタン空爆の中、緊急食料援助を行いました。この間寄せられた「アフガンいのちの基金」をもとに、総合的農村復興事業「緑の大地計画」を長期的に継続します。

○すべての活動は、日本の約1万2千名のベシャワール会会員によって支えられています。



パキスタンとアフガニスタンで活動しています

○1998年に日本の会員の寄付によって完成したベシャワールの基地病院(PMS=ベシャワール会医療サービス 70床)が現地活動の中心です。

○難民の故郷であるアフガニスタン農村無医地区への支援は、彼らの自発的な帰還を促し、長期的にはアフガン復興の礎となるものです。

○らい(ハンセン病)診療を中心に、あらゆる感染症を診察し、病気の早期発見と予防に努めています。

○ただ治療するだけでなく、感覚神経マヒが原因の足底穿孔症(うらぎず)から、らい患者の足を保護するサンダル工房を病院内に備えるなど、予防にも力を入れています。

○女性患者が医師(男性)にすら肌を見せないイスラム的風習の中で、日本人女性看護婦によるケアを行っています。

○現地医療スタッフへの教育も重要な活動の一つです。

○病院で患者さんを待つだけでなく、病院に行く交通費さえない山岳部の患者さんのため、定期的に巡回診療(無料)に出かけています。



1 医療施設(2002年11月現在)

パキスタン側(2ヶ所)

①基地病院PMS(ベシャワール会医療サービス、70床) 1ヶ所

②ラシュト診療所(北西辺境州、北部山岳地帯)

アフガニスタン側(3ヶ所=いずれも北東部山岳地帯)

①ダラエ・ヌール診療所

②ダラエ・ビーチ診療所(オキナワ・ピース・クリニック)

③ワマ診療所

*カブール臨時診療所は終了しました。

2 水源確保計画事務所(2002年11月末現在)

①ジャララバード事務所

→アフガニスタン東部の作業地883ヶ所(813ヶ所が利用可能)

緑の大地計画

○空爆下のアフガニスタン国内難民への食糧配給計画を中心とした「アフガンいのちの基金」へは、日本国内から多くの善意の寄付が寄せられました。

○ベシャワール会では、これらを基金にして、厳冬期を迎えたアフガンで、小麦粉と食用油(日本の米、味噌、醤油に相当)を約15万人に配給しました。(最も緊急を要する極貧層や空爆地域を優先、1・5カ月分を配布)。

○緊急の食糧配給事業は、首都カブールと東部ニングラハル州を中心に2002年2月まで続けられましたが、国連や他の国際団体の活動開始をもって、計画を終了しました。

○今後は長期的展望に立った、長年の戦乱によって荒廃した農村復興のための「緑の大地計画」に全力をかたむけます。

○具体的には

1 水源確保計画

・2000年7月からアフガニスタン国内の診療所で赤痢患者が急増しました。原因は大干ばつによる水不足でした。

・そこで同年8月より医療活動の一環としてアフガニスタン東部一帯で2000の水源(井戸・カレーズ)を確保すべく活動を継続しています(2002年11月末現在作業地883ヶ所、利用可能水源813ヶ所)。

2 医療計画……開設から10年



を経て老朽化が目立つ北東山岳部の3診療所の建て替え工事を行い、安心して診療できる施設にします。

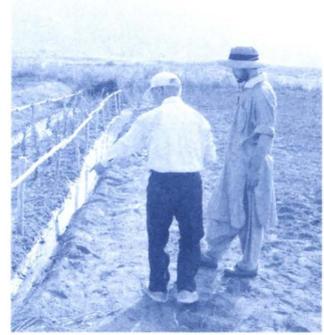
3 農業計画

・ダラエ・ヌール渓谷をモデル地区とし、日本人専門家の指導の下、地域と密接に関わる総合的な復興計画です。

①灌漑用水確保=大井戸の掘削

②農業計画=土壌改善、品種研究、場所によっては換金作物も試みています。

③畜産計画=農作物の増産と並行して進められます。



中村哲

なかむらてつ

現地代表・医師

ベシャワール会現地代表、PMS(ベシャワール会医療サービス)総院長。1946年福岡市生まれ。九州大学医学部卒業。

国内の診療所勤務を経て、1984年パキスタン北西辺境州の州都ベシャワールに赴任。らい(ハンセン病)を中心としたアフガン難民の診療に携わる。1991年以来、アフガニスタン北東部の3診療所を中心に、山岳無医村での無料診療を開始。1998年には恒久的な基地病院PMS(ベシャワール会医療サービス。建坪1000坪、70床)をベシャワールに建設。

2001年からはアフガニスタン首都カブールに5つの臨時診療所を設置、貧困地区の診療を行う一方、大干ばつに見舞われたアフガニスタン国内の井戸と水路(カレーズ)の掘削と復旧に従事。2001年10月には「アフガンいのちの基金」を設立。空爆下、国内避難民への緊急食糧配給を実践。現地スタッフ約220名、日本人スタッフ約10名。年間診療数29万人(=2001年度)。

【受賞】外務大臣賞(1988)毎日国際交流賞(1992)西日本文化賞(1993)読売医療功労賞(1996)朝日社会福祉賞(1998)、沖繩平和賞(2002)

【著書】『ベシャワールにて』『ダラエ・ヌールへの道』『医は国境を越えて』『医者井戸を掘る』(石風社)『ほんとうのアフガニスタン』(光文社)『アフガニスタンの診療所から』(筑摩書房)など



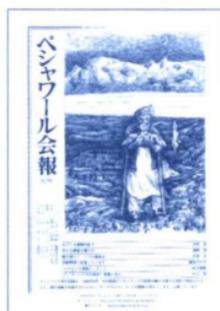
心が動いたら会員に

ペシャワール会入会案内

現地事業はあなたの会費で運営されます

本会は、会員の会費・寄付金を中心とした寄金によって運営されるNGO（非政府組織）です。本会の活動をご理解いただければ、思想・宗教・国籍などいかなるものにも関係なく入会できます。

*会員の方には、現地の活動をお知らせする会報を年4回お送りしています。



会費（年会費）

学生会員	1000円
会員	3000円
維持会員	10000円
団体会員	30000円

（会計年度は4月1日～翌年3月31日）

- * 会費以外の寄付も随時受け付けております
- * 中村医師の著作も扱っています

会費・寄付などの納入方法

郵便口座 01790-7-6559

加入者名 ペシャワール会

お振込みの場合は、本会の払込用紙または郵便局備え付けの払込取扱票に上記の口座番号ほか、必要事項をご記入の上、郵便局へお出し下さい。

*

*

*



書籍のご注文の際は、

郵便口座 01710-6-87114 加入者名 ペシャワール会書籍口座
まで送金ください。

●会報の発送に年間百万円以上がかかっております。未使用の切手・書き損じのハガキ等お送りいただければ幸いです。（古切手は扱っておりません）